



人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員 70 名 出席 56 名 出席率 80.00 % 前回出席率 80.00 % 修正出席数 64 名 確定出席率 91.43 %

会員スピーチ

養 鶏 の 現 況

三 井 健 君



昔はと申しまでも、昭和35年頃までの養鶏というものは、専ら採卵養鶏を指して言っておりました。

当時、日本の養鶏の改良になかなかの水準に達しておりまして、その頃各県の種鶏場に集合検定という制度があり、種鶏家から10羽づつの代表鶏を出品させて、10月1日から翌年9月30日まで1年365日産卵の検定をやっておりました。そして世界で最初に1年365日1日も休まずに産卵を続けた鶏を作出したのは岩手県の橋本善太という方でした。彼は種鶏の改良家でした。その育種技術を使っただけでなく、山形県でも365産卵鶏が出ましたし、当時の日本の状況はなかなか盛んであったのです。しかし、残念ながらこれ等はすべてオリンピック選手であり、一般の状況は概して低く、日本全体の産卵平均は150ケ～170ケ位であったろうと想像されます。ところが当時のアメリカの状況はどうであったかと申しますと、当時からアメリカでは1軒当りの養鶏羽数が何万、何10万という単位だったわけで、オリンピック選手を後生大事に言うことではなく、群単位で物事を考えておいたわけです。したがって改良育種の方法も1羽が何ケ生んだではなく、群で平均何ケ生んだか、そして日量産卵を重視して、1日平均何kgの卵が生産されたかとする群単位のいわゆる集団育種の方法がとられてきたのであります。

日本でも昭和30年から35年にかけて、例の針金を使ったゲージで飼うようになると、飼育羽数がだんだん大きくなり、アメリカ式の集団育種をされたものが求められ、35年前後からの溜々としてアメリカの鶏が入ってくるようになり、逆に4～5年の間にほとんどの鶏が青い目のトリになってしまい、現在では国産鶏はせいぜい2～3%にしかならないような状態になっています。

現在の採卵養鶏は、飼養羽数は1億5千万羽前後(内山形県60～70万羽)で、その1年間の産卵個数は1億個余り。人口1人当たり1個弱となっております。山形県は完全に卵の移入県となっております。

以上が戦前から戦後にかけての養鶏でしたが、同じく35年頃からもう1つの養鶏が生まれました。即ちブロイラー養鶏がそれです。昔から日本では四つ足は食べないが鶏は一般庶民の食卓にもおせられておりました。しかし、それは卵を生み上げたパアサンどりで、元来が食用の為に飼われたものではありませんでした。ただ、わずかに名古屋とか関西あたりの養鶏先進県では名古屋コーチンとか、ブリモスと言った卵肉兼用種を使って水炊等、専ら煮物として使われていた程度でした。ところが今お話したブロイラー鶏が(ブロイラーとは元来ブロイルする、焼くからきたもの)日本に定着してきたのです。したがって現在養鶏と言っても、採卵養鶏とブロイラー養鶏の別々のものに大別されるようになりました。

採卵養鶏については以上概略申し上げましたが、ブロイラー養鶏に一寸ふれておきたいと思っております。申し上げましたように、ブロイラー養鶏が始まったのは、昭和35年～40年頃にかけてですが、ブロイラーは水っぽいとか柔らか過ぎるとかよく言われますが、それは道理で、生れて10週間即ち70～75日飼育して食べるのですから、全くの即製で、水っぽいわけです。元来焼いて食べるように飼われたものが、煮て食っては水っぽいのは当たり前です。しかし日本では昔から鶏は煮て食うような習慣がありますから残念なことです。

現在ブロイラーは全国で年産1億5千万羽、約7万トン～8万トンとなっております、国民1人当たり消費は年間6～7kg位と推定されます。私の所では昭和27年頃から採卵鶏の孵化をやっておりましたが、40年頃からのブロイラーの孵化を始めて、現在に至っております。現在生産しているのは、アーバーエーカー富士と言う品種で、私共の所ではブロイラーの飼育ではなく、その元ビナとなるヒヨコの孵化生産のわけです。種鶏場は七窪にあり、そこに約3万羽の種鶏を飼育し、内1万5千羽が成鶏です。肉用

庄内空港の建設を推進しましょう

に改良されたものですから、産卵は白色レグホン等の採卵鶏に比べ、至って産卵率は悪く非能率です。飼育期間が約70週500日不足で、その間育成が約180日、残り320日位が産卵期間ですが、産卵個数は約150～170G位です。そもそも私共では日本アーバーエーカーと言う、三井物産とアメリカのアーバーエーカー社合併の会社から種鶏を購入しているわけですが、その日本アーバーエーカー社はアメリカのアーバーエーカー社から種鶏を購入しているわけで、完全にアメリカの下請けという格好で鶏の改

良育種は専らアメリカの同社でやるようななさけない状況です。これは青い目の採卵鶏、又外の品種のブロイラーについても全く同様の形態となっております。

以上、長々と申し述べましたが、養鶏業界も採卵鶏、ブロイラー共生産過剰気味で、なかなか容易でない現状です。ここで皆さんにせいぜいコレステロールの心配ない程度に卵を召し上げて頂く事と、脂の少ないブロイラーないし鶏肉を召し上げて頂くようにお願いして私の話を終らせて頂きます。

## 会長報告

中江 亮君

- 先週にもお話し申し上げました通り、今後のプログラムを委員会報告及び会員イニシャルスピーチ等を重点的に計画しておりますので、残る4ヶ月間充分にこの時間を活用されますようお願いいたします。
- 会員増強についてのお願いです。現在のところ交替が1名あっただけで、実質増は未だありません。増強委員会としては5名の実質増の方針を立てておられますが、今のところ苦勞されているようであります。2～3の会員のご協力を得て、かなり可能性のある方を2～3考えておりますが、何卒会員の皆さん1人1人のご推薦をお願い致したいと思っております。

## 幹事報告

佐藤元伸君

1. 会報到着 鹿児島西R.C.
2. 例会変更 鶴岡西R.C.
  - 3月11日の例会の時間と場所の変更
    - ファイヤー サイド ミーティングのため
    - 日時 3月11日(金) 18:00
    - 場所 大山楼
    - 登録料 3,000円
    - 職場訪問のため
    - 日時 3月18日(金) 12:30
    - 場所 (株)サトーコーセーツルオカ  
(中央工業団地内)
    - 登録料 1,500円
3. ローターアクト委員会より例会への出席お願い
  - 3月第1例会 3月2日(水) 青年センター  
P.M. 7:00
  - 第2例会 3月16日(水) 〃
4. (財)ロータリー米山記念奨学会より  
57年度上期の寄付金明細が到着
5. インターアクトクラブ委員会より  
鶴高専がホストクラブとなって山形地区(7クラブ)の指導者講習会を4月24日9:00より産業会館において開催します。

## 親睦活動委員会

張 紹淵君

会員誕生 石塚敏彦君 小松広穂君 中野清吾君

佐藤 忠君 佐藤 昇君 鈴木茂男君  
手塚林治君 若生恒吉君

奥様誕生

早坂保江(徳治)様	石川徳江(寿男)様
板垣地永子(広志)様	石塚綾子(敏彦)様
小松陽子(三雄)様	嶺岸豊子(光吉)様
松田照子(貞夫)様	大森えみ子(健司)様
佐藤晴子(衛)様	高橋多恵子(良士)様
高田紀子(耕助)様	

## 出席委員会

佐藤 順治君

◎年間皆出席

11年間皆出席	小池 繁治君
10年間皆出席	板垣 俊次君
7年間皆出席	迎田 稔君
5年間皆出席	川村 徳男君
1年間皆出席	佐々木栄一君

◎2月100%出席 49名

## ロータリー財団委員会

佐藤 衛君

奇数月の第1例会はロータリー財団協力の日でありますので、会員1人1ドル以上のご寄付をお願い致します。会員の高橋良士君、佐藤昇君、松田貞夫君の三名の方よりポールハリス準フェローになる為のご寄付を頂戴しております。今年度14人目の準フェローです。

## 米山奨学会委員会

鈴木 弥一郎君

この程財団法人米山記念奨学会の方から寄付額の明細が来ております。253地区において当クラブの1人当りの年額寄付額が2,000円で普通寄付金が57年7月から12月までの半年間で73,000円、今年は特別寄付額がなくて、合計が73,000円となっています。過去の累計が普通寄付額が144万2千円、特別寄付額が266万5,478円、合計3百50万7,478円で、地区内では最優秀クラブになっております。これも皆様の絶大なるご協力の賜だと思っております。

## ビジター

鶴岡西R.C. 八幡慶二君・菅原年雄君

(今週の担当者 斎藤 隆)